

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 22 章 63-71 節 ＞

1 (63-65) 人を侮辱したり暴力を振るってはならない特別な理由。

ここを読むと、まず「イエス様を侮辱して殴った」ことに驚かされます。なぜそんなことができたのか？ イエス様が誰で、何のために来て下さったかを知らなかったからでしょう(イザヤ書 53:3-5)。また、イエス様は、「最も小さい者の一人にしたのは、私にしたことだ」と教えられました(マタイ 25:40)。人に暴力を振るったり侮辱したりしてはならないことは当たり前のことのようですが、決してそうでないことは、してしまった後で理由を付けやすいことを考えれば分ります。しかし、私たちはこことマタイの二つの個所から、人に暴力を振るったり侮辱したりすることはできないと思うようになれる、イエス様から来る二つの特別な理由を知らされたのです。あとは、不完全な私たちですが、イエス様に感謝しつつ、私たちが取り組んで行くだけです。

2 しかし、それはただ耐え忍ぶということでもない。

ここでイエス様が示された姿をペトロが取り上げています (Iペトロ 2:21-23)。しかし、そこから、「何を言われ、何をされても、耐え忍ぶことが大事なのだな」と聞き取るなら、それは違います。ペトロの言いたいことはその後の 24 節以下の、イエス様がそのようにして負って下さった十字架の死が持つ私たちにとっての意味です。イエス様は理不尽なことを言われた時に、はっきりと言い返されてもいます(ヨハネ 18:19-23)。どんな人に対しても、暴力を振るったり侮辱してはならない、しかし、おかしいことにはおかしいとはっきり言う、そういう姿を取ることが信仰者と教会に求められているのです。

3 (66-71) イエス様の言い方は分かりにくい？

「イエス様はもっとはっきりと『私がメシア (神からの救い主)、神の子だ』と言われればいいのに」と思うかもしれません。しかし、問う者も答える者も「答えははっきり示した、示された」と思っています。「答えははっきりしているが、それを信じるかどうかは別の問題」ということなのでしょう。この世界で最重要な問題が提示されているのですから、聖書が示そうとしている内容は本当に信じるに足るかどうかを真剣に探究したらいいと思います。そうしたら、神様が必ず私たちの目には見えない神の真理を見えるようにして下さるでしょう。